

修士論文（要旨）

2021年1月

在中朝鮮族と在日朝鮮族の言語意識に見る朝鮮語の未来

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

219J3011

李 金玲

Master's Thesis(Abstract)

January 2021

The Future of Korean in China and Japan: The Language Consciousness of Chinese
Koreans

Jinling Li

219J3011

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Fumihiko Aoyama

目次

第1章	はじめに.....	1
第1節	研究背景.....	1
第2節	研究目的.....	2
第2章	先行研究.....	3
第1節	朝鮮族、コリアン・ディアスポラ、中朝バイリンガル.....	3
第2節	「言語意識」の定義.....	3
第3節	朝鮮族の言語使用実態.....	4
第4節	中国朝鮮語と規範.....	4
第3章	研究方法とアンケート調査分析.....	6
第1節	研究課題.....	6
第2節	研究対象と研究方法.....	6
第3節	予備調査の実施.....	7
第4節	本調査の実施.....	7
第4章	言語使用と意識の調査分析.....	10
第1節	調査対象者の基本情報.....	10
第2節	調査対象者の言語の使用.....	11
第3節	言語意識について設定した質問.....	18
第5章	フォローアップインタビュー調査の分析と考察.....	21
第1節	Cの事例.....	21
第2節	Jの事例.....	24
第6章	まとめ.....	26
	参考文献.....	28
	資料.....	29

言語の継承は、両親の意志によるところが多い。中国には民族学校があるが、学生数が少なくなるに従って、民族学校の数も減る傾向にある。中国朝鮮族の歴史を見ると、朝鮮族は移住を恐れない民族である。移住ということばには変化の意味が込められている。移住のために発生した様々な変化の中で他の言語の影響を受けて言語意識は変わってきた。

また、中国の民族地域における両語教育が変化し始めてきたため、民族語の継承を中国政府の政策に依頼することが難しくなった。本稿では、現在子供を育てている朝鮮族の民族語継承の状況を明らかにし、子供の言語教育の中で無視できない朝鮮語の継承について論じる。

本稿のリサーチクエスションは以下の3点である。

- (1) 朝鮮語の未来についてどう予測するか。
- (2) 朝鮮語を継承したい理由は何か。
- (3) 今継承の際どのような問題点があるのか。

上のリサーチクエスションを解明するため、中国の大都市と日本に居住している朝鮮族の既婚者を研究対象としてアンケート調査で言語使用と意識について調査した。朝鮮語の継承に関してもっと詳しく調べるため、子供の言語教育、朝鮮語の継承、朝鮮語の未来に関してインタビュー調査を行った。中国の大都市と日本に居住している朝鮮族の既婚者を研究対象に決める理由は彼らの朝鮮語の継承と未来を決められる力が未婚者群体より大きいと判断したためである。朝鮮族の移住率が非常に高い現在の社会環境で朝鮮族学校がない都市での朝鮮族の言語認識を分析することは意味を持つと考える。

調査の分析と考察の結果、在中と在日朝鮮族の既婚者は居住国の影響を多く受けておらず、全体的に、従来の先行研究と同様の様相が示された。まだ朝鮮語が母国語である認識は大きく変化することはなかったが、子供との会話で使う言語で在中は中国語、在日は日本語の割合が圧倒的に高かった。また、テレビ番組の言語の割合も子供との会話で使う言語の割合と一致している。つまり、子供の場合は住んでいる国の言語の使用頻度が高く、母語と認識する可能性が非常に高いと予想される。

子供の朝鮮語教育については、朝鮮語を教えたいという考えを持つ人の割合が高かった。その中で、在中朝鮮族の認識が在日朝鮮族より高かった。しかし、次のような理由から朝鮮語教育の限界が見える。まず、朝鮮族学校や韓国語を自然に学ぶことができるところが少ない。次に、家庭で苦労して教えたが、社会環境や学校環境で使用することができないため、自然に家でも使用しなくなり、最終的に朝鮮語力を保持できなくなる。そして、朝鮮語を教えたいが、子供の将来を考慮すると、朝鮮語の優先順位が低くなる。

このような朝鮮語の継承に示される問題から、今後の朝鮮語教育をどうすべきかという疑問が生じる。中国では少数民族教育と少数民族言語教育を国が認め、支援しているが、国の政策だけを頼って朝鮮語の継承を持続することは不可能である。よって、朝鮮語の継承には朝鮮族の集団の力が必要だ。

朝鮮語の継承は、親の意志だけでなく、言語を継承していく子供のタスクでもある。親、家族また朝鮮族団体は子供に朝鮮語を抑圧的に教えるのではなく、自ら朝鮮語の重要性を理解し、興味を持つようにして自主的に学ぶきっかけと機械が必要であると考え。そし

て、朝鮮語が家族とのコミュニケーションで、非常に重要な役割を立っていることを自ら体験しなければならず、ここには、家族、特に祖父母の役割が一番大きいと予想される。本稿の調査で出てきたように祖父母の民族の割合は100%で朝鮮族である。また、子供に朝鮮族団体の存在があることを認識させられるように、様々な朝鮮族と交流、学習する機会を創造して、子供のアイデンティティを認識するきっかけを作るべきである。ここで両親の役割は、子供に朝鮮族団体と交流することができるように機会を作ったり、このような団体を作るべきだと思う。本稿の調査で出てきたように、教えたいという気持ちだけではく、朝鮮語の継承のために、より大きな情熱と執行力がなければならないと判断する。そのためには朝鮮族の親たちの認識がまだ足りないと思う。本稿を通じて朝鮮族に今すぐ行動しないと朝鮮語は、最終的に子供の世代で切断されるということを知らせたい。興味の部分では、朝鮮族団体の朝鮮語教育を研究する専門家や一人一人の家族に任せるべきだと思う。一人一人の子供に基づいて、具体的な教育方法がすべて異なっているからである。

本稿は、先行研究に基づいて、少数の在中、在日朝鮮族の既婚者の言語使用と認識についての調査で、朝鮮族の言語の実態調査の一部を担う研究だと言える。今後の課題は、量的研究を行いより多い人数のデータから実態を明らかにすることである。また、今後は朝鮮語の継承と未来を決められる力が大きい朝鮮族の子供を研究対象として続ける必要があると考える。

参考文献

- 早尾貴紀 (2015) 『時事用語事典』
- 金英実 (2012) 「中朝バイリンガルの言語意識に関する事例研究—朝鮮語に対する意識を中心に—」 『言語教育研究』、第2号、pp. 21~30
- 小泉聡子 (2012) 「複言語話者にとってのことばの意味—複言語主義的観点から—」 『言語教育研究』、第2号、pp. 31~41
- 青山文啓 (2007) 「ことばの研究と辞書に記載される情報」 『桜美林論集』 31:37-45.
- 高木丈也 (2019) 『中国朝鮮族の言語使用と意識』 くろしそ出版
- 姜海順 (2011) 「朝鮮族民族通婚の調査研究 —以延辺朝鮮族地区为例」 韩国学中央研究院項目 (AKS-2011-R-22)
- 宮下尚子 (2007) 『言語接触と中国朝鮮語の成立』 九州大学出版会
- 趙 貴花 (2016) 『移動する人びとの教育と言語—中国朝鮮族に関するエスノグラフィー—』 三元社
- 植田晃次 (1996) 「中国の朝鮮語規範化文献に見る規範制走者の「規範語」観 —文化大革命終結以降—」 『国際開発研究フォーラム』
- 平 直樹、川本 ひとみ、慎 栄根、中村 俊哉 (1995) 「在日朝鮮人青年にみる民族的アイデンティティの状況によるシフトについて」 『Japanese Journal of Educational Psychology』
- 郭 潔敏 (2007) 「中国における多民族・多文化共生の発展動向」 『立命館言語文化研究 / 立命館大学国際言語文化研究所 [編]』
- 張瓊 華 (1998) 「中国における二言語教育と民族的アイデンティティの形成—民族文化共生の視点から—」 『比較教育学研究第24号』
- 権 香淑 (2011) 「朝鮮族の移動と東北アジアの地域的ダイナミズム—エスニック・アイデンティティの逆説—」 『東北アジア研究』 第20号
- 宮本 大輔 (2004) 「中国における危機言語問題—言語転用が招く言語の死—」 『言語と文化論集』 No. 11
- 関口靖広 (2013) 『教育研究のための質的研究法講座』 北大路書房
- Lee Jung Tae (2017) China`s Minority Policy and the Identity of the Korean Diaspora. Korean Journal of Political Science, 25(2):81-106.
- Choi Mihwa (2017) A Study on the Language Maintenance and Development of Korean-C-hinese(Choseonjok) Society as a Korean Diaspora
- Cui Meihua (2017) 재중동포 이중 언어 교육의 실제와 개선 방안 -연변조선족자치주를 중심으로- 『이중언어학』 제 71 호 二重言語學會
- Seo Geumryung (2018) 재중동포의 거주 지역별 언어 사용실태 연구 -한국과 중국 거주 조선족의 비교를 중심으로-
- Bak Gyeongrae (2012) 『재중 동포 언어 실태 조사』 国立国語院